常磐毎日新聞

日刊

二月十六日夕刊

日曜祝祭日の翌日休刊
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

天氣豫報
今晩は北西風 晴
明日も北西の 晴一時曇

全國の業者に訴へて木炭適正價格を速進
濱三郡木炭同業組合から代表者が産地聯盟に列席

十五日東京において開かれた木炭産地聯盟協會に濱三郡木炭同業組合から次の代表者が出席木炭適正價格の速進に關して全國業者へ愬へ實現を期すところあつたが

現在の生産者は原木の騰貴と勞金高から生産費が嵩む一方にありこれに對し販賣値は公定に縛られてゐるため場合によつては欠損する有樣なので結局悲鳴をあげ是非適正價格を設けて欲しい

といふのである、なほ代表は石城郡草野米彌、双葉郡遠藤嘉吉、相馬郡志賀嘉吉氏の外早川組合長佐藤理事の五氏

聲もかすかに陛下の萬歳を叫び
群がる敵の陣中に散る
噫、鮫島上等兵の最後

既報平市平窪字中瀬出身立花部隊鮫島上等兵は中支戰線で活躍中昨年十二月十八日名譽の戰死を遂げられたがこの程角田榮一中尉から實家へ〃鮫島上等兵の働きこそ皇軍の精華で殊勳甲に値する〃と左の如き戰死詳報がもたらされた

弘道君は徐洲戰、大別山の戰ひ或は武漢、羅田、英山等の攻略戰に參加し惡戰苦鬪致る處に敵を擊滅しこの間勇敢にして沈着戰鬪に警備に討伐に一意專心盡忠報國の誠を致し一日の忠勤を勵む、偶々十二月十三日我數十倍する敵の大軍と〇〇灣附近に相見ゆるや激戰は展開せられ同日より行動を起し隨所に敵を擊滅し同月十八日〇〇嶺の頑强なる敵陣地に對し夜襲を決行突擊を以て第一線陣地を突破し連續猛攻擊を續行中湖地省〇〇嶺南方の〇〇の地點に於て敵彈の爲め腹部に重傷を受け倒る直ちに衛生兵及戰友等驅けつけて看護するに唯一言〃天皇陛下萬歲〃と叫んだのみで眠る如く名譽の戰死を遂げらる、嗚呼我等一度戰場に起たんか勿論生還を期せざるも炎熱に苦しみ酷寒を冒し一髮輕からず〃命輕し〃との信念を以て勇戰奮鬪する勇しき英靈に對しては眞に感謝敬仰に堪えず殊に弘道君とは事務室に起居を共にしあの元氣な勇姿が髣髴として腦中を離れず戰死せるとも思はれぬ有樣なりまして故國に在る御遺族の皆樣御心境お察しするだに斷腸の思ひ切なるものあり今や幽明界を異にし護國の神として又東洋平和の柱石として不滅の光を放ち永く靖國の森に留めまゐらするならん、茲に謹みて過去の偉大なる功績に對し感謝敬仰の眞意を捧げ御冥福を祈ると共に御遺族の皆樣に對し哀悼の微意を表す

今日着任した渡部署長
粉骨碎心警察の責務を果すと語る

新任の平署長渡部勇吉氏は今十六日平驛着午後二時五十分で家族同伴着任されたが同氏は北會津郡神指村の生れ本年四十七才、二十三年の警察官生活中須賀川、三春、高田他二ケ町の署長を勤めあげ既に試驗濟み柔中剛を含む大物だけに今後の活躍が期待される、渡部さんは語る

平は初めてヽすが何回も出張して來たことがあり管內の大体は知つてゐる、平市は鑛山工場が多く從つて事故及び事務が多く忙しいと思ふ、この新興都市に任を奉じ懸念されるものがあるが一旦拜命着任した以上粉骨碎身警察の責務を果したいと思ひます

家出した男が桑畑で凍死体

上小川村字上小川坑夫近藤周吉さん(四六)は去る九日家出した儘行方不明となつたので大騷ぎとなり其筋へ屆出ると共に各方面に手配捜査を行つてゐた處十四日午前八時頃田村郡大越村大字上大越字白石地內桑畑に凍死体となつてゐるのを通行人に發見されたといふ

縣下警防團長が花の平市に集合

既報平署管內の警防團長會議は十四日同署會議室に開き今春花の四月平市に開催される縣下警防團長會議に對する協贊方法を協議したが豫算三千圓程度の協贊會を設立することに決定されたが經費は各團割當に寄附することになつた

淨財を寄附

大野村圓福寺住職三吉敎順師は寒行で得た淨財五十圓をこの程村銃後奉公會に寄附した

優良漁船の表彰
二十二日に小名濱町で

既報、小名濱町では來る二十二日町內及び町營市場漁業組合合同で十四年中の優良漁船其の他の表彰式を水産試驗場で擧行するが町營市場代行部磐城水産工業の表彰の優良漁船は左の如く決定した

▽揚繰船1共德丸(柳內吉助)2寶來丸(高橋友吉)3海運丸(比佐政種)4大勝丸(三代簽勝)5勝丸(同)▽遠洋漁船1盛厚丸2明方丸3壽々丸4榮福丸5榮勝丸▽機船底曳 1觀音丸(齋藤消吾)2第二勇丸(田島熊次郎)3松丸4共運丸(馬上松太郎)5朝日丸(庄司經太郎)

謝禮を獻金

飯野村大字上荒川坂本武君は今十六日拾得金のお禮五十錢に小遣錢一圓を加へ平署を通じ恤兵獻金した

ラヂオ塔の準備が整ふ
市役所前庭に本月末頃建設

既報平市の放送局設置の前提たるラヂオ塔の市役所前庭へ設置問題はいよ〳〵正式決定、HKで諸準備を整へてゐたが全く整つたので用材の到着次第本月末乃至三月早々に建設をみることゝなつた市內及び近郊の聽取者は今後惠まれる譯である

軍友會講演

四倉軍友會では二十七日午後七時から四倉座にこの程北支戰線から歸還した白石玄海師を迎へ時局講演會を開く

組合村の合併懇談

既報、縣では紀元二千六百年記念事業として組合村の合併を慫慂してゐるが地方の組合村合併懇談會を次の如く開催する

△二十六日午前十時磐城郡平市國休事務所、田人村他三ケ村組合、三阪村他一ケ村組合、永戸村他一ケ村組合

磐城漫歩（一）
內務省土木局 和泉生

源義家が奥州征討の折燦爛と咲き誇る櫻樹の下に馬を鞍じ

吹く風を勿來の關と思へども
　みちもせに散る山櫻かな

と詠じた勿來の關跡は、茨城福島兩縣界に在り、東は大海渺々涯しなく、西は峻嶺蜒々として遠く連り懸崖絕壁天を摩し、當時は白河・念珠と共に奥州三關と稱せられ、陸奥の拓植と東夷の猖獗を鎭撫するため、軍事的に構築されたものであつた。老松鬱蒼と繁茂し、松籟瀬音に和する雅趣は、關東の宮、義家矢の根の清水、宗任涙石、義家の墓碑等の史蹟に往古の繪卷が偲ばれる。關址を北進すれば植田町であるが、延長五百二十米の威容鮫川橋が白蛇の如く橫はる。昭和十二年度より直轄の手に掛りて三十七萬圓を要し、官民協力の下に、昭和十四年七月之が新裝を遂げ、同月二十四日、內務大臣代理として山崎土木局長の臨席を仰ぎ、いとも嚴肅裡に竣功式が擧行された。縣下六號國道の關門鮫川橋と、溜通りの第一の商工都市として殷賑を極むる平市外れの夏井川に、同じく直轄事業として昭和十一年度に架設された平神橋の兩橋が無盡の炭坑を埋藏する石城地方の鑛産交通に、如何に目醒しい貢獻を爲しつゝあるかは想像に餘りあるであらう。

六號國道の直轄改良工事が、最近物凄く擡頭的地位を占むるに到つた動機は、無論近代交通の激變に寄する一般民の深き認識が然らしむるであらうが、老骨と雖も壯者を凌ぐ平市長青沼銖太郎氏を見逃す譯にはゆくまい鮫川、平神の二橋と言ひ昭和十四年度に於ける平市湯本町間の改築と言ひ共に青沼氏の獅子奮迅の勞が齎した賜物であることは否めない。

徳川末期櫻田門外の異變後、老中の職を荷つて維新劇の立役者たりし安藤侯の舊城下平市は、昭和十二年六月一日隣村の平窪を合併し市制を實施した。常磐大炭田の中心地に位し、石城七濱を近くに控へて、其の活況は遙かに福島、郡山、若松の三市を凌ぐ。維新の兵燹に殘つた平城唯一の舊蹟丹後澤は、丹後なる者難工の築堤に自ら人柱となつたと謂ふ劇的なものであり、今は昔の十分一に縮小した湖上を、モダンな白いボートが鴎の樣に浮遊し、東北一の櫻を誇る松ケ岡公園の花吹雪は、赤い百萬燈の灯に映えて一大不夜城を現出する。

散りはてて枯木ばかりと思ひしを
　日入りて見ゆる谷のもみじ葉

と大町桂月翁が歎賞した夏井の谿谷は、初夏の新綠と秋の滿山に燃ゆる紅葉は車窓の名畫であり、其の奇景は長瀞に劣らない。

小名濱支局通信

東亞醫科大學父兄會に臨む（五）
支局長 小野務平

十一日は一同各與られた寮舍に依つて旅裝を解き外國に於ける一校を明し夢は故山に飛んだ事と思ふ、十二日は午前十時開校式を講堂に充てた昔の病院內で擧げた、列席された駐島官邊の顯官連も見へ莊嚴の裡に式を終へたのであるが學生の多くは東京に於ける完備した校舍からこの病院改造の學校に來たので或はこんなと云ふ氣も起した向きもあるが實際は初めて開校する學校としては實に能く整備して居るのに實は驚膽した一人である

それは東京帝大の始業當時はバラックの中で式を擧げてゐる、又兄さん株の同文書院はどうかと云ふと近衛公の理事長としての振り出しとしても初年は兎も角も二年まで應募者がなかつたのは有名で共校舍としても推知するに足りるであらう、然るに本大學は然かも堂々たる病院充當ではあるが煉瓦四階建てと云ふ整備の學校は開校當時に何處の學校と比較してもこれ以上の整備した學校はあり得ない。

殊に生徒の如きも百五十名に限定されたが應募者實に三千名にも達して居ると云ふ旺盛振りは他に見る事の出來ぬ何よりの立派な證據であると力說した。

其內教授連は何れも內地錚々たる醫學者揃へで之れが身以て自ら率ゆる覺悟を以て生徒と寢食を共に實踐躬行の誠を致す指導精神は大學程度の學校には此亦見る事の出來ぬ處である、そんな譯けで學問向上は勿論でも人格陶冶の上に絕大なる力を注ぐ方針たるに於て父兄の皆さんは絕体に御安神を願つてよいと信ずる

其他物價問題だが內地と比較すると全く相當高い、普一結果以上だらうと學用費の如きもそうであるがこれは今日組織された父兄會と學校との連絡に依つてこの弊を除去出來るせば決して心配の要はない、氣候の點に至ると內地と聊かも相違がない、唯入梅時が雨量多くして此期間に休暇を取り八月土用中は凉風滿喫の青島で通學すると云ふ仕組で此點も內地の想像し得ない處である。

以上の點から觀察して決して御子樣方が心配して居なさる樣なものでない事を明確に申上げて置く」と云ふのであつた。

霜山氏は常務理事としての職責上輕々しき態度で話しをするものでなく眞に氏の眼に映した處を直に話しをしたのに過ぎぬが多少の憂慮危懼に襲はれつゝあつた我々は遂に疑念を一掃し更に父兄會の本會議に移つたのであつた。

（續く）

漁業用の資材配給協議

縣下漁業用各種資材協議會は今十六日午前九時から小名濱漁業組合事務所に開かれたが主催者の全漁聯始め農林省係官及び縣內各漁業組合幹部出席し本年所用のロープ用マニラ、石油、綿製品、ゴム靴、軍手、鐵材等の配給に關し協議した

協和會擔當

原町警察署長板垣六郎氏は二十五年間の警察官生活を勇退したが平市の協和會に入り勞務動員計劃に伴ふ半島人の教養保護善導の事務に當る事となり今十六日着任した

同僚を袋叩
山の不良檢擧

內郷村高坂住吉坑採炭夫今野二郎(二五)湯本町水野谷炭坑々夫宗片正雄(二五)內郷村宮澤河渡邊榮太郎(三二)の三名は十二日午後二時半頃宮の飲食店松葉屋方で飲酒中居合せた同村住吉坑々夫清留誠君(二七)に喧嘩を吹かけた揚句戶外に連れ出し散々袋叩きにし全治十日間の傷害を負はせたこと發覺今十六日平署に檢擧された

四倉協和會

四倉町協和會發會式はこの程擧行されたが役員は左の如くである

支部長影山四倉署長、副支部長大井英男、顧問木村守江、參與新妻四倉町長、眞田磐城セメント所長、篠原四倉校長、鈴木四倉濱漁業組合長、幹事佐藤富三岩原常二、指導員西山直次、岩倉常二、補導員徐萬甲

植田町會

植田町では二十八日町會を開き明年度豫算を附議する

時局講演會

四倉町鷄場會並びに佛教護國團の時局講演會は十九日午後六時半から四倉座で開催される

キネマ

△世界館—松竹大船、コロンビア合同豪華音樂映畫高峯三枝子、木暮實千代、森川まさみ、近衛敏明、淡谷のり子齋藤達雄、山內光、松平晃主演「純情二重奏」前後篇、松竹京都情緒篇岩田英二演出、藤井貢、坪內美子、伏見直江主演「風流深川唄」外

△聚樂館—東寶、寶塚提携第二回作品初音麗子、梅園ふみ子、佐保美代子、園井惠子、二條宮子、久美京子春日野八千代外「雪割草」パ社大作ゲーリイ・クーパー、クロデット・コルベール當代一の名コムビ主演「青髭八人目の妻」大相撲日報大會外

平市人事

回出産

△才槌小路二五目下東京市荏原區中延長一二五丸富塚熊吉氏二女千鶴子さん

回婚姻

△耶麻郡北山村大字北山字林西四一〇三佐藤武男氏(三二)と杉平一九木谷畑ケサさん(三四)

△好間村大字上好間字小館九六村瀨一見氏(三六)と中平窪字勝見澤二二上妻智村子さん(二四)

△北海道紋別郡遠輕町字上社名淵九四ノ二秋葉幸太郎氏(四七)と五丁目一六野田節子さん(二七)

回死亡

△立町九一目下神奈川縣足柄郡足柄町中島一七清原三千年君(一)

ラヂオ

今晩の部

▽後六、〇〇 子供の時間 かゞやく日本歌繪卷 BKコドモ唱歌隊、大阪教育放送合唱隊
▽後七、二〇 郷土に寄する言葉(錄音)大日本武德會範士九段三船久藏
▽後七、三〇 國民歌謠 ◎紀元節奉祝特輯番組(第六日)
▽後七、四〇 特輯講演「紀元二千六百年所感」安達謙藏
▽後八、〇〇 吹奏樂 海軍々樂隊、指揮隊長內藤淸五外
▽後八、三〇 浪花節「勸進帳」春野百合子

明日の部

▽前九、四五 幼兒の時間 對話と唱歌「幼稚園のあるひと時」宮城縣女子師範學校附屬幼稚園々兒
▽前一〇、〇〇 衛生メモ
▽前一〇、二〇 家庭の時間「働く人の榮養食」醫學博士正井保良
▽後〇、〇五 土曜コンサート
▽後三、〇〇 婦人の時間「第一次歐洲大戰當時の英國の生活」松本惠子
▽後五、三〇 東北勤王史講座「福島地方の卷」阿部泰弈
▽後六、〇〇 子供の時間 おはなし「昔のこくも」オハナシクラブ
▽後六、二五 講演「新秩序の建設と國民の自覺」法學博士石田文次郎
▽後七、二〇 郷土に寄する言葉(錄音)聲樂家關屋敏子
▽後七、三〇 國民歌謠 ◎紀元節奉祝特輯番組 第七夜◎
▽後七、四〇 小國民の夕 一、お話「大國民になれ」男爵穗積重遠 二、朗讀「小學國語讀本から」東京市小學校兒童 三、物語「古事記物語」石井廣一 四、童謠聯曲獨唱河村順子 五、建國童話劇「海、幸彥 山、幸彥」服部昭二、東洋音樂學校普通科生徒
▽後九、一〇 長唄「望月」吉住小三郎外

御婚禮御着附
パーマネント ウエーブ
和洋結髮
オゾン美顏術
御染髮洗毛
御爪美術
◎御婚禮用の〃かつら〃も御座います。
平市驛前 水野化粧院
電話 六七八(營業所) 五二五(自宅)

病室增築、手術室完備
醫學博士
産科婦人科 五十嵐雄二
平市新川町 電話三六九番

男女工數名募集
常磐毎日印刷株式會社
平市長橋町【電話六三〇番】

風熱頭痛 アコーラヒタ
本品は當藥局主藥劑師責任調製研究せるものにして解熱、鎭痛張心興奮の作用を有する。故に流行性感冒、頭痛、肺炎齒痛、ロイマチス腰痛等に効あり大人一回一包宛特に白砂糖にて頓服用す。
正價 三十錢、五十錢、一圓

喘咳百日息 鎭咳藥「アコー」
本品長井博士發見鹽取エフエドリンを主藥に高貴藥數種配合せるものにして喘息百日咳肺炎急慢性氣管支カタル、感冒等々喀痰咳嗽に効有り
正價 五十錢、一圓、二圓

平市古鍛冶町一〇(縣社石段下)
製劑發賣元 阿康藥局
責任者藥劑師 明治藥學士 阿部康雄
電話 四四番
振替東京三〇〇六五番

まついゆうけんでん
松井勇劍傳

第四回

平氏相傳の秘法

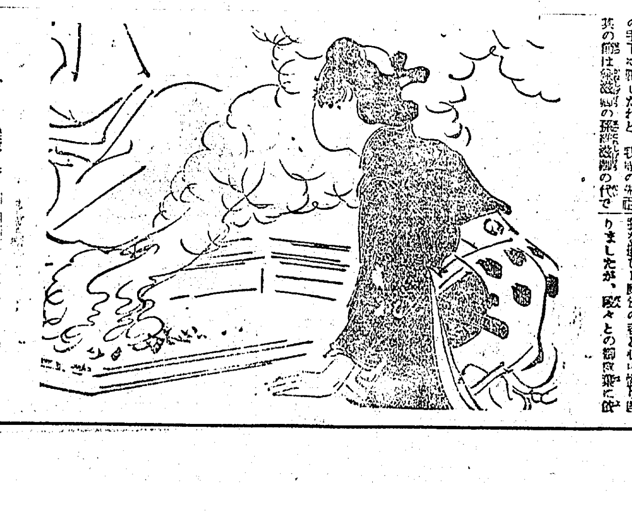
[illegible]んで右の老人老『俗で我が名を名乘つて遊はず、我は[illegible]武[illegible]と申す、成が先[illegible]武[illegible]となり給ふた世に[illegible]と申したのである。其の[illegible]に生れたる一子幼名[illegible]元服して[illegible]父君[illegible]に任ぜられたる時、[illegible]に下りたるが、[illegible]給ひたれば、[illegible]父君の[illegible]を去るに忍びずとあつて[illegible]に止り代々武名を擧げ給ひしが其の後[illegible]九年の役に[illegible]大功あつて[illegible]仰せ付けらるを以つて、[illegible]の如く[illegible]なりて[illegible]の手下に[illegible]したれど、[illegible]共の[illegible]は[illegible]の代でありしが、如何[illegible]の手下となることを[illegible]に[illegible]され一族一[illegible]共に此の山[illegible]に[illegible]たるが始まりにて、[illegible]を交へず、[illegible]に一世[illegible]を[illegible]して[illegible]の及ばざる所であつた。然るに長日月の間には山を出でし者もあり死に絕へたる者もあつて、此の方の代に至りては只一人と相成つた。殊に老年にて明日をも知れぬ身なれば若し我れ死ねば[illegible]の正統空しく絕え果てる事となる[illegible]祖へ對して申譯なく又千餘年の[illegible]も一朝にして滅ぶるは誠に殘念。何卒して一人の弟子を養ひうけたきものと思ひしが[illegible]を迎へる事は[illegible]、又成功の[illegible]なれば天[illegible]にして平家の[illegible]でなければ[illegible]成らぬ[illegible]。それ[illegible]を[illegible]人に扮して[illegible]ねく諸國を[illegible]ね回たる處、今より十年以前[illegible]州[illegible]に於て[illegible]ず[illegible]未だ幼兒の其の方が乳母に抱かれて門前に遊び居たるを見れば、[illegible]に天[illegible]の相[illegible]な[illegible]へ居たれば、[illegible]ぞ我が思ふ所なりと、姓をたづねたれば[illegible]井を名乘り居るとのこと、松井は平氏にして[illegible]る[illegible]かとたりければ、[illegible]ひ[illegible]へず、其の[illegible]に於て[illegible]ひ取らんと[illegible]ひたれど、未だ[illegible]せぬ小[illegible]不[illegible]と思ひて今日まで十餘年[illegible]いたり。然るに今日[illegible]も[illegible]分[illegible]も先[illegible]たる年となりたれば斯く召し連れ[illegible]りたるのである。今日より我が[illegible]元にあつて我を父と思ひ仕へよ。去る代り五年の後には我家に[illegible]は[illegible]の劍術兵法、文武の妙[illegible]を教へ遣はし[illegible]の父母の許へ返し遣はさん。なれど生みの父母[illegible]しくて我が許に居るが[illegible]と[illegible]は今晩にも山[illegible]の[illegible]下まで送り屆け遣はす、[illegible]十二才の少年と云へばそれ[illegible]の分[illegible]なしとは云はれぬ、よく心を定めて返答いたせ』

[illegible]は力ある[illegible]が含んで[illegible]ります。[illegible]の上に[illegible]いてゐた[illegible]下げ頭を低れ、[illegible]今までは只々我を[illegible]ひし[illegible]の[illegible]と[illegible]りましたが、[illegible]との[illegible]に[illegible]りますれば不束な私をさほどまで[illegible]下され、剩つさへ武[illegible]をお教へ下し置かれますとは、[illegible]加至極に存じまする。[illegible]も師とも[illegible]へ申しまする。何卒子とも弟子とも思召して不[illegible]を加へ給はれば有難き仕合せに存じ奉りまする』と年にも似氣なく爽かに[illegible]べました。

老人大いに悦こんで、老『よくぞ答へたり、如何にも[illegible]みにまかせて我が[illegible]の秘法[illegible]く授け取らすべし』

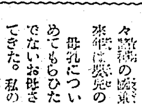
其の夜は互に[illegible]りて眠るととになりましたが、民次郎始めて[illegible]かる山中へ連れ來られ父母の膝下を放れて只一人眠るのであれば、目もあはぬ[illegible]であろうと、それとなく樣子を窺ふて居ると、いたかと[illegible]ふと間もあらせず、大[illegible]を[illegible]いて眠つて居ります。此の樣子を見て老人[illegible]と、老『何[illegible]までも[illegible]しき少年であるわい』と[illegible]んで居ります。

民次郎[illegible]になつて目を[illegible]すと、[illegible]老人は疾くに起きたと見えて机に向つて[illegible]いて居ります。老『お、目が覺めたか[illegible]のものを[illegible]んで納め[illegible]へ[illegible]つて手[illegible]が[illegible]つて來れ――コレ〳〵[illegible]をつかつたら[illegible]をせよ』



乳の出ない母

上野シゲ子



出産率人口増殖のたてまへから、今年は母子保健、乳幼兒檢診、[illegible]等向上、子寶貯金、[illegible]等々諸種の施策が試みられたが本年は乳幼兒の「食」である母乳についての研究もはじめてもらひたい。近頃お乳のでないお母さんが非常に殖えてきた。私の郷里は南國の田舎であるが、四十代の女は大抵六七人の子持でありながらなほかつ生みつづけてゐる。年をとつても乳がよくでてもらひ乳をする人など殆どない。ある專門家の話では、人工榮養は都會の方がはるかに多いといふことである。

子を生めば乳のでるのは自然で、生れた子は一日八〇〇CCから一〇〇〇CCをのんで發育するのである。それなのに現在のやうに、生れるとすぐから牛乳のお世話になつたり、二三ケ月も經つ内にさまざまの人工榮養にたよらねばならぬやうでは結婚を奬勵して「生めよふやせよ」とさけんだところで生れた子を榮養不良のため死なせたり、體質の惡いヒヨロヒヨロの人間を作りあげたりしてしやうがない。この方面の權威ある研究や統計もまだないやうである。日本人の母乳の質的量的研究、母乳の地方的相違、乳と食物との關係、經濟的事情と母乳等々の研究があつて然るべきである。

・・とんち問答・・

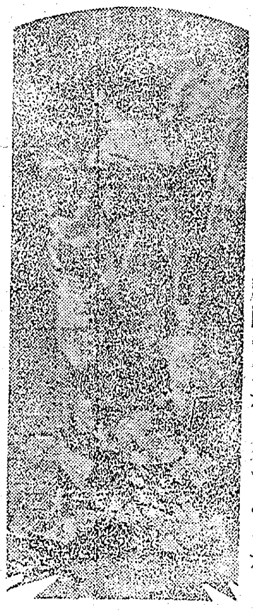
問「トンチヤン、ある人が鳥の巣をみつけたが、あき巣だといつた、さて、なに鳥の巣かわかる？」

答「あきすなら、カラス（からすのすだらう）」

街頭風俗批判

歸還兵や田舎者を驚かす 東京女性の派手好み

この原因は何から來てゐるか？



戰時下の東京で、最近街頭を歩く女性の服裝が大へんけばけばしく派手になつてゐることは衆目の一致した觀察だといはねばなりません、嘆かはしいのになるとお孃さんのやうな人が若い娘の着るやうな原色の大柄な着物を着てゐる有樣です、これはどういふ社會心理に因るものであり、また經濟的にはどういふ風に說明されるものでせうか、新居格氏の御意見をきいてみませう

（　）

女の服裝が派手になつたと云はれてみるとなる程と思ふが、私は特に派手でけばけばしくなつてるとは別段思つてゐない、そり田舎から突然上京したやうな人目には、きわめて地味な服裝をした東京の女性も時として派手に映るかも知れないが、だからといつてすぐ全體の傾向だとしてしまふことは早計だと思ふ、しかし次第に派手になる傾向はいろいろな點に伏在してゐるやうだ

◇今まで派手な着物を着やうと思つても、自由に着ることのできなかつた女性層が戰爭景氣の波にのつて金が充分に手に入る――つまり經濟的に豐になつたことから夢ひけばけばしい派手な着物を着ることになつたのではないかと思ふ女性にとつて一ばん強烈な慾望は着たいかざりたいことであると云つても決して過言ではない、既に女性の慾望がさういふものである時さういふ慾望が、經濟的不如意から抑壓され、それが除去されたのだからひたむきに派手な服飾や着物に飛びついてゆくのはむしろ當然であるし、そこには決して無理があつてさうするのではない

◇今一つは現在[illegible]るが、人の氣持にも時々疲れがくる、疲れが來たからといつてすぐ[illegible]ぐらついてゐるといふことはできないが……さういふ一種のタルミが多少でもあるとすれば、これは刺戟的な明るいものを心理的に求めることになるのではなからうか、パーマネントは駄目だと命令されることは女性にとつて大きい不滿である、一方で抑壓された不滿は他の方面に不滿のはけ口を見出さうとする、頭の方を平凡にすれば衣裳の方を派手にしようとする。これはむしろやむを得ないことであらう

◇以上のやうに[illegible]がよくなつたゝめに派手な着物を着るほどの女性は、別に被服があるわけでないから、さういふ服裝が本當に美であるかどうかといふやうなことは客觀的には全く問題にならない、彼女達は單なる氣分的流行的に主觀的にのみ派手なもの、けばけばしいものを愛してゐるに過ぎない、本當に時局に即應した聰明な女性は非常に少いだらうし、また新り出などには恐らく出てこないだらう、ロシア革命の當時會ロシアの女性は男のやうな服裝をしてゐたが、少し落着してくると彼女達は女の正體を反動的に發揮してスターリンの獎勵など問題にしなかつたさうだ、以上擧げたやうな社會的、心理的原因からはでな服裝をした女性が、徐々あらはれて來てゐるが全體的な大勢だとは思へない、さういふ一部分の現象から全體をおし徹底的に、神經して女性の心理を萎縮させることは却つてよくない、街頭の女性はにでよけばけばしくて怪しからんと云はれたのではモンペ姿の女性が泣くであらう

雪の日

寒いときの入浴ご注意

寒いときにはお風呂に入るにもつい急いで浴槽にとびこみやすく從つて湯氣にあたつて氣もちがわるくなるといふ方がありますが、これは血行障害からおこる腦貧血です、入浴する前、水で十分全身をしめし、皮膚の血管を徐々に擴大させ、すが湯につかるにも[illegible]、ふかく沈めることは溺水が[illegible]壓迫して呼吸困難を[illegible]けるため、[illegible]があたゝまつたらなるべく[illegible]大半を湯水からあらはすやうにし、肩が冷えたらときどき手拭でしめすやうにします。冷性や[illegible]、風邪をひきやすい人はお風呂へ一二にぎりの鹽をいれると、鹽にふくまれてゐるクロームナトリユームやカルシウムその他の[illegible]によつて、皮膚膜や汗腺の分泌が締まり、皮膚に保護膜ができるのでよく身體があたゝまるから効果的です。

寒がりは生理的に故障がある

暖房のない冬―冬の寒さに入つてからどうも冷えるといふ方はないかと思ひます、醫學的にみるとなにか生理的に障害があるのではないかと思ひます

一、子宮後屈などがあると、下半身の血液の循環がうまくゆかないので非常に冷えます、これも[illegible]がなければ藥劑であたゝめても結局[illegible]こうですが根本的には手術で治ります

二、更年期の方も、冷性になります、あまりあたゝかいと却つて氣もちがわるく顔がほてり、足が冷るとか、頭痛めまひなどが[illegible]あり[illegible]的にはくしやくしやし[illegible]上つたりしますが、これは[illegible]によくあらはれる現象です

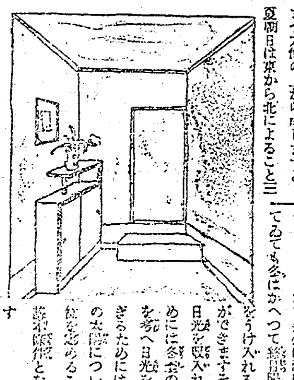
方角と陽當り

住宅地を買ふ人はこれ丈は心得おくべし

近頃土地の分讓といふことがなかなかさかんになつてきたやうですが、やがて、何日の日にか住宅を建てたいといふ人も相當あるのを見こんでのこととおもはれますがそれについて土地の選び方をお知らせいたしませう

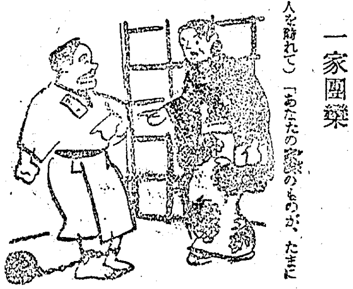
まづ方位の上から申しますと、夏朝日は東から北によること三十度の邊り、冬の朝日は東から南によること二十八度の邊りまた夏の日沒は西から北によること三十度、ふゆの日沒は、西から南へよること二十八度といふことになります、この方位と陽當りとの關係をおぼえておくとなかなか重寶します、さて、これを念頭において、土地を求める人はよく注意いたしませんと失敗することがあります

さて地勢は高燥で排水よく、空氣は澄み日あたりよく、冬あたゝかで夏風通しのよいことは申し[illegible]は[illegible]の光線[illegible]も多く含まれてゐることはすでに多くの[illegible]によつて唱へられるところですが、この方角の開けてゐることが最も[illegible]外線が多く含まれてゐますからこの方角の開けてゐることが何より大切です、また西陽は問題になりますが、夏の夕日は眞西よりも北側によりますから多少は西にふれてゐても冬はかへつて[illegible]陽の光をうけ入れることができます、そこで日光を吸入れるためには冬至の太陽を考へ日光をさへぎるためには夏至の太陽について方位を定めることが[illegible]條件となります



[illegible]は[illegible]の三[illegible]が最も適當とされてゐます、形は正方形にちかいものほど何かにつけて都合よく、殊に小住宅では南北に長い宅地はいろいろの點で不便を感じますから[illegible]めて注意を要します、なほ、地質や水質、水[illegible]をしらべることも忘れてはならぬ事柄であり、地盤のわるいところでは建物の土臺に[illegible]な費用がかゝり、不經濟を建立てた土地では利益にかゝる[illegible]出する[illegible]合さへおこります、井戸は水道の有無にかゝはらず、[illegible]から[illegible]へたいものです、また[illegible]の[illegible]が[illegible]つてゐるかゐないかもよく[illegible]しておかないと、あとから[illegible]に[illegible]することがあります、また[illegible]ぬところに[illegible]さわぎを[illegible]したり、[illegible]が吹きだすと、[illegible]を吹きつけたり、あとから[illegible]でも[illegible]つゝか[illegible]合さへありますから[illegible]です

宅地の[illegible]へはなかなかむづかしいと云ふことですが、それに[illegible]る[illegible]の方[illegible]日光の[illegible]されるものですから、[illegible]に[illegible]してください



一家團欒

警察官（囚人を訪れて）「あなたの家族のものが、たまには訪ねてきますか？」

囚人「家族？いや、一人も面會になんで……みんな、こゝへあつまつてますア！」

むところ、[illegible]が既に東南にゆるい傾斜があつて南北から[illegible]ぐやうなところが[illegible]的です、しかし[illegible]からといつても、[illegible]があつては家との間がしめりがちなばかりでなく、[illegible]の際に[illegible]がおこりやすく[illegible]の[illegible]などでは[illegible]の[illegible]を[illegible]して[illegible]したところは一[illegible]ます

[illegible]の[illegible]にある[illegible]はめにいはゆる「[illegible]」となり[illegible]において、[illegible]上よいばかりでなく[illegible]の日[illegible]のよい方に[illegible]けることができるので[illegible]から見て申し[illegible]ありません

日光の入る家に[illegible]とはもちろんです[illegible]

時局小說

驀進

（北國映畫上映）

士別一樹

北野傳畫

第七十五回　邂逅（五）

麗子は眼をさますと枕元の時計を覗いた、また六時で、起きるには少し早いと思つたが今日は日曜だと思ふと、久し振りの休みが嬉しくて、デツと床の中にゐることが出來なかつた。

既に好枝が微かないびきをかきながら眠つてゐた、弱いとみえて布團から二ノ腕と、白な乳房が覗いてゐる。

麗子はソツと起きると、布團をかけ直してやつてから、静かに窓を開けた。新しい朝風がサツと吹いてきて、何とも云へない爽快な氣分であつた。

[illegible]は[illegible]に[illegible]へると、ソツと[illegible]開けて戸外へ出た、[illegible]近くの[illegible]へお詣りすることにしてゐたのである。

[illegible]には年老つた[illegible]が一人、[illegible]の[illegible]の武運を祈る母親の姿でもあらうか、社前にぬかづいて静かに祈りをこめてゐた。

麗子も静かに石段を上つて[illegible]をお詣みながら[illegible]の前に近づいた。

[illegible]な、何時もより永い祈りを[illegible]させて立上つたが、彼女は立去りかねて社前に立つてゐた。次々に色々な人達がお詣りに來る姿が[illegible]についた。どの人も[illegible]の武運を祈るらしく[illegible]られるのであつた。然しその[illegible]どの人達が、麗子のやうに[illegible]の[illegible]を祈るか、[illegible]人の[illegible]を祈るかのやうで、[illegible]かな[illegible]人の武運を祈るやうな[illegible]の[illegible]は見當らなかつた。

彼女は、さう氣がつくと、[illegible]らず[illegible]くなるのであつた。

「ちよつと、麗子さん大變よ」

見ると好枝が[illegible]のまゝで、[illegible]の方から呼んでゐる。さすがに[illegible]に入れないで[illegible]ぎしてゐる。

麗子は[illegible]いで近づいて

「どうしたの、そんな[illegible]」

「大[illegible]よ、今、[illegible]の人が[illegible]訪ねて[illegible]」

彼女の心配さうな[illegible]、[illegible]を云つてゐるやうに[illegible]し、麗子も[illegible]がつかつた。

「麗子はゐませんかつて、立つてゐるのよ、背の高い、でも一寸[illegible]男らしい人よ」

それを聞くと麗子は、[illegible]に[illegible]ひ出した。

「あら、兄さんだわ、わたしの兄よ」

「えゝツお兄さん、まア、わたしどうしやう」

好枝が急にあはて出した。

「いゝぢやないの、[illegible]だつて[illegible]に人[illegible]ぢやないことよ」

麗子は[illegible]りにアパートへ[illegible]つてみると、[illegible]が、ヅングリと立つてゐた。

「まア兄さん、よく[illegible]下すつたわねえ」

「うむ今日は日曜だからゐるだらうと思つてやつて來たが、アパートつて、[illegible]らしいな」

「あらあんなこと、でも一寸まつてゝね、今お[illegible]して了ふから」

兄をベルコニーの方へ[illegible]してやると二人は大急ぎで[illegible]をはじめた、そして[illegible]く[illegible]を[illegible]させてから、兄を招じ入れた

「兄さん、紹介するわ、この人お友達で好枝さんて云ふんですの」

「あゝさうですか、僕は麗子の兄です、色々と妹が御厄介になつてゐるさうで」

「いゝえ、私こそ」

彼女は[illegible]くなつて頭を下げた。

「先刻は失禮したわ、好枝さんが呼びに來て兄さんのことを」

「あらツ」

麗子が何時になく、好枝をからかふやうに笑ひながら話し出したので、好枝はあはてゝ

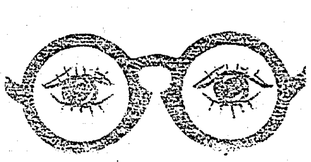
「いやよ、そんなこと云つちや、[illegible]ね」チラツと[illegible]を[illegible]をした

「ハツハツハ……[illegible]は[illegible]男と[illegible]はれんでね、[illegible]人[illegible]、[illegible]

[illegible]

[illegible]、[illegible]あつた。

メガネ專門の店



メガネは絕對信用ある當店に

先づ御相談下さい…………

玉屋

平市本町二町目

平病院（電六四一番）

平市警察署側（元共濟病院跡）

院主 醫學博士 鈴木定藏

科	役職	氏名
內科	院長	鈴木定藏
小兒科	副院長	土井利明
一般外科 內臟外科 皮膚泌尿器科 レントゲン科 物理的療法科	副院長	高橋俊幸
	院長	鈴木定藏
藥劑科	部長	吉本孝平

◎診療時間 每日午前八時ヨリ午後九時迄

（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）

往診隨時

病室完備…入院隨時（自炊ノ便アリ）

入院料 一日 特等武圓・一等壹圓五拾錢 二等壹圓參拾錢

高久病院

院長 醫學士 高久忠

副院長 新潟醫學士 赤羽清

藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

內科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科

平市田町 電話五一三番

――◎看護婦至急募集――

カメラと用品

現像引受

お用命は

西村屋藥局寫眞部

電・2平

他店で御氣に召さぬ時は是非一度

――常磐線東京仙臺間であらゆるクリーニング機械設備の揃つている――

純ドライクリーニング

西洋洗濯

平市 田町

白榮舍ランドリー

正直なる仕事と優秀なる技術を望まるゝ方は

是非！設備平市第一の

白榮舍ランドリーへ

吉田眼科醫院

平市紺屋町

電話八六

冬物は

是非！

當店から

（在庫豐富）

玉屋洋品店

平 田町通 電話六五六番

◎診療科目

一、齒科一般

保存科、補綴科、槽膿漏科

小兒齒科、槽漏膿科、齒列矯正科

一、口腔外科

一、レントゲン科

平市田町（松月堂向）

中野齒科醫院

電話五〇九番

院長 日本齒科醫學士 中野憲次

日本齒科醫學士 鹽谷伍郎

補綴部主任 佐藤重義

耳鼻咽喉 科專門

大和田醫院

平市南町一六（電話一七〇番）

眞冬の味覺

（とんかつ專門の店）

興亞の春を迎ひどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します

▼出前は迅速に御つとめ致します。

平市仲田町（電話四六五）

かの家

每度有難う御座います

パン食の普時代及

……自慢の食パン召し上がれ！……

榮養パン バターロール

甘コッペ チヨコレートロール

野菜サラダパン クリームロール

カレーパン・カツパン・黑パン

ベーカリー 東京堂

平市搭槌小路（電話一〇八番）

鈴木醫院

平市田町

電話五八番

ほねつぎ

桑原柔道整骨院

平市公園下　電話六七四番

干やなぎ と〝美味しい〟みりんぼし

『鰹節製造販賣』

志賀盛榮商店

平市四丁目（電話二一三番）

日本生命平代理店